

## 1. 事業の目的

### ☆健康都市の創造支援コンソーシアムにおける事業目的

- ・複数の健保組合にて健康課題や保健事業における課題を共有し、同一の保健事業を協働で実施することにより、保健事業の効率化を目指す。
- ・効率が悪く、行き届いた保健事業を実施できていない地方において、自治体に協力を願い、協同で加入者のヘルスリテラシー向上に向けた取り組みを実施する。
- ・各自治体、商工会議所、地域医師会等と連携し、予防・健康づくりの取り組みを実施し、各地域の市民及び自健保加入者の健康増進を図る。また、各地域の健康に関わる産業を活性化させ、自治体の健康都市の創造、地域おこしへとつなげていく。
- ・このコンソーシアムを通して作り上げたモデルを横展開し、各地域での健康都市創造事業を活性化させる。

## 2. 事業内容

### ☆事業実施状況

#### ・自治体との健康イベント企画

平成29年8月～10月

- ・参加組合の特徴分析と共通課題を明確化
- ・協同で実施する保健事業及び優先地域の選定

平成29年10月～12月

- ・優先地域の自治体、商工会議所、地域医師会等への働きかけ
- ・優先地域での協力事業者の選定

平成29年12月～平成30年2月

- ・各自治体と協力事業者との協議により健康イベントの企画設定

平成30年2月～3月

- ・参加健保組合の加入者へのイベント参加働きかけ
- ・一般参加者も含めたイベント全体でのイベント集客働きかけ

## 2. 事業内容

### ・健康イベントの実施

平成30年3月～4月

#### ・くまもと春の植木市 健康フェスタ：「平成30年3月11日（日）」

熊本に春の訪れを告げる「くまもと植木市」会場に「健康フェスタ」を併設させ、楽しい健康体験コーナー(①簡単健康チェックコーナー/ 血管年齢・ストレスチェック②歯と口の健康コーナー/フッ化物洗口体験・8020まあとてゲーム③簡単エクササイズ体験④美味しい野菜の講演会⑤ウルトラセブンと食育を学ぼう⑥ひご野菜紹介コーナー⑦ふわふわスライダー体験⑧よしもと爆笑ONステージ等)の健康づくりウォークラリーに参加頂いた方を対象にし、アンケートに回答いただいた方に、「ウォッチ万歩計」をプレゼント。この「ウォッチ万歩計」を使って4月の1ヶ月間で毎日、歩数を記録し、報告頂いた方に抽選でのプレゼントを企画。以上の企画を熊本県と協同で、自組合の加入者及び一般参加者のヘルスリテラシー向上と運動を習慣化させることを目的に実施する。

#### ・徳島マラソン ランナーズ・オアシス後夜祭：「平成30年3月24日（日）」

とくしまマラソン後夜祭会場の「健康STYLE」ブースで、13ヶ所の楽しい健康体験(①スラックラインレッスン②ジャグリング体験③フラフープ体験④ウェービング・エクササイズ⑤ウォーキングレッスン⑥健康相談・骨密度/血管年齢測定・改善アドバイス⑦健康運動指導士によるセルフコンディショニング)や健康フード(⑧運動後の疲労回復にタンパク質⑨グルテンフリークッキー⑩豆腐唐揚げ⑪モチモチおからボール⑬玄米タコライス⑬お野菜とオーガニックパスタ)をスタンプラリーにてお試しいただきスタンプ5個以上と、アンケートに回答いただいた方に、「ウォッチ万歩計」をプレゼント。この「ウォッチ万歩計」を使って4月の1ヶ月間で毎日、歩数を記録し、報告頂いた方に抽選で徳島県の名産品をプレゼント。以上の企画を徳島県と協同で、自組合の加入者及び一般参加者のヘルスリテラシー向上と運動を習慣化させることを目的に実施する。

#### ・やまぐち健康維新ふれあいフェスタ：「平成30年4月8日（日）」

今年で33回目を迎える「維新・海峽ウォーク」のゴール地点に「やまぐち健康維新ふれあいフェスタ」を併設させ、楽しい健康体験コーナー(①青空ヨガ×生演奏②みんなの体力検査③ロディオガ④歯の健康・今日からできるホームケア⑤脳トレ・おもちゃ体験コーナー⑥乳がん視触診モデルの体験⑦マフラータオルストレッチ⑧アロママッサージ⑨健康ハーブ教室⑩美腸プランナーによるセルフケア講座⑪夏みかんの足湯⑫タイガーフックショー等)を設置、また、30kmのロングコース、8.5kmのショートコースを歩き切った方や上記の健康体験コーナーに参加頂いた方を対象にし、アンケートに回答いただいた方に、「ウォッチ万歩計」をプレゼント。この「ウォッチ万歩計」を使って4月の1ヶ月間で毎日、歩数を記録し、報告頂いた方に抽選でのプレゼントを企画。以上の企画を山口県と協同で、自組合の加入者及び一般参加者のヘルスリテラシー向上と運動を習慣化させることを目的に実施する。

### 3. 主な結果・活動報告

#### ・参加組合の特徴分析と共通課題を明確化

このコンソーシアムに参加している6組合全てが、製薬会社を事業主に持つ健康保険組合であり、この加入者においては、医療や健康における知識、関心レベルの高い方が多く存在します。ただ、分析をしてみると、健康に関する理解はあるものの行動が伴わず、健康によりよい意思決定をし、よりリスクの低い行動を選ぶまでのヘルスリテラシーの高さまでには至っていない方が多く存在します。よって、行動までに結びつけるために健康風土醸成も必要であると考え、自治体で実施している「健康都市の創造」との連携をしていくことに至りました。

製薬会社の特徴としては、服薬者が多く、血圧や脂質などはコントロール出来ている方が多いです。高血圧においては、受診率が高いですが、50歳以降で脳血管疾患における受診者割合が低くなっています。また、脂質異常症においても受診率が高いですが、60歳以降で虚血性心疾患における受診者割合が低くなっています。つまり外来医療費はかかりますが、重症化せず入院医療費は抑制できています。ただ、これに伴う生活習慣においては、朝食抜き、早食い、多量飲酒などの食習慣の乱れや運動習慣がない方が多く、LDLコレステロールや中性脂肪などの脂質異常者割合が高くなっています。

また、業務上、転勤者も多く、転勤者の家族において各年代で不安障害の受診率が高いことから、転勤者家族の心のケアのために転勤先の自治体との連携（コミュニティ、相談窓口と連携イベント等）が必要であるということに至りました。

同業種(製薬)の参加組合比較においては、男女別、同年齢で比較すると各社で差が出ています。各製薬会社が得意とする領域ではよい傾向が出ていますが、無関心領域では悪い傾向が出ています。よって、ヘルスリテラシーがいかに重要性であるかということに至りました。

#### ・自治体との健康イベント企画

優先地域の選定においては、イベントを実施できる期日が冬になることを考慮し、西日本地区に絞りました。また、野菜摂取量が少なく、糖尿病患者の多い徳島県やアルコール摂取量の多い鹿児島県など、特徴の出る自治体に絞り、各自治体の窓口や商工会議所、地域医師会等に対して、健康風土醸成の為の企画を協同で実施する働きかけを行いました。しかし、なかなか協力を得ない自治体が多く、実施したいと考えていた自治体との話が進まずに苦労をしました。その中で協力を得たのが、熊本県と徳島県、山口県になります。

以上の自治体においては、健康風土醸成における理解度が高く、毎年実施していて、来場者数の多いイベントを持たれていたことから、そのイベントの中に健康風土醸成につながる健康イベントを併設させていただくことを持ちかけました。そして、各自治体と協力事業者との打ち合わせ、協議を重ね、健康イベントの企画、案内準備と進めていっています。また、準備が整った平成30年2月より、参加健保組合の加入者や一般参加者も含め、イベントへの集客働きかけを実施しています。

### 3. 主な結果・活動報告

#### ・健康イベントの実施

##### ・くまもと春の植木市 健康フェスタ：「平成30年3月11日（日）」

- ・くまもと春の植木市 2月1日(木)～3月11日(日) 総来場者数 約23万人
- ・3月11日(日)健康フェスタの総来場者数 約7,000人
- ・健康づくりウォークラリー参加及びアンケート回答者 868人
- ・アンケート結果によるイベントの満足度 95.7%、運動習慣を改善する60.3%、食習慣を改善する62.7%

##### ・徳島マラソン ランナーズ・オアシス後夜祭：「平成30年3月24日（日）」

- ・徳島マラソン出走者12,416人
- ・とくしまマラソン後夜祭会場の総来場者数 約10,000人
- ・「健康STYLE」ブースにおける健康スタンプラリー参加及びアンケート回答者数 996人
- ・アンケート結果によるイベントの満足度 98.9%、運動習慣を改善する70.2%、食習慣を改善する66.9%

##### ・やまぐち健康維新ふれあいフェスタ：「平成30年4月8日（日）」

- ・維新・海峡ウォーク参加者 約20,000人
- ・やまぐち健康維新ふれあいフェスタ総来場者数 約10,000人
- ・健康づくりウォークラリー参加及びアンケート回答者 1,075人
- ・アンケート結果によるイベントの満足度 96.5%、運動習慣を改善する70.3%、食習慣を改善する66.0%

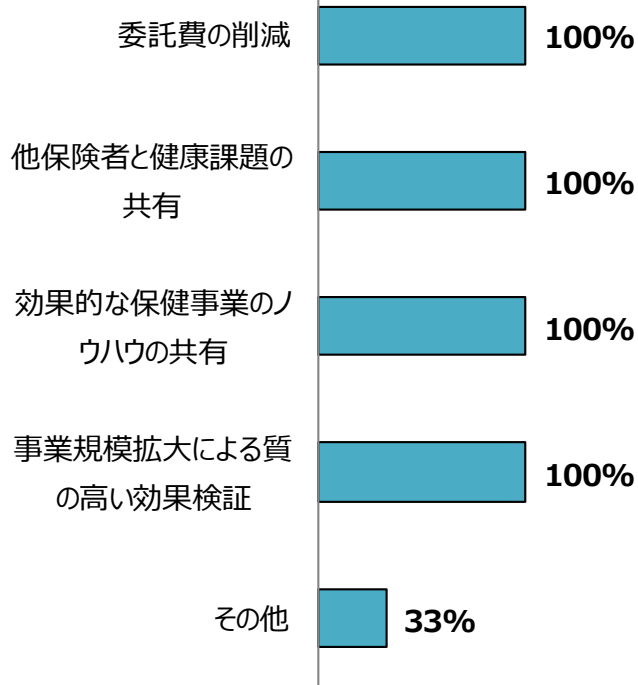
## 4. 協働開発・実施のメリット

・複数の健保組合にて健康課題や保健事業における課題を共有することで目的意識、ノウハウが共有でき、同一の保健事業を協働で実施することにより、より効果的な保健事業ができる上、効率化にもつながる。

・各自治体における予防・健康づくりの取り組みとは、進むべき方向性が同じことから、同じ目的意識を持って、健康施策に取り組むことができる。また、各自治体での健康施策は、各地域の健康に関わる産業を活性化させ、地域おこしにもつながる。

### 共同で保健事業を実施するメリット 参加組合対象アンケート

n=6



※その他 共同事業に参加する各健保から1名以上の担当者が選出されることにより、1健保で行うより担当できる人数が増え、より確実に対応できる。

## 5. 本モデル事業に参加してみた感想

○目的意識が共有でき、運営がスムーズだった。また、他健保が加入者の行動変容のために行っている手法を学ぶことが出来、有意義だった。地域からは、継続を強く要望され、今後の連携を検討したい。(サノフィ健康保険組合)

○単年度での評価ではもったいない事業であると考えます。せめて、募集して決定することが年度初めであれば、活動期間が長くとれると思います。(ノバルティス健康保険組合)

○全イベントとも伝統があり、集客力もあるイベントだった。これらのイベントとうまく協働することができたと思う。また、①現地のイベントと協働 ②現地の方々と健保組合員の参加 ③現地の企業を優先して使う ④気付きを与えて、継続して行えるイベントという方針を明確にした点がよかった。(ノバルティス健康保険組合)

○他健保組合の「保健事業への取り組み意識の高さ」「加入者へのアプローチ方法」などが参考になった。当方の反省として、当健保組合加入者へメールでの参加呼び掛けをしたが、当日の参加者は見受けられなかった。地方の加入者の行動変容(参加いただくこと)を起こすことの難しさを痛感しました。(MSD健康保険組合)

○各地域の特性、イベントの歴史等により、来場される方の年齢層、性別等が異なり、事前に来場者の傾向を予測して、そのターゲットにあった保健事業の実施することが効率的、効果的な結果を出せるだろうということが、わかりました。また、当健保も全国70ヶ所にオフィスがあり、それぞれ各地区の特性があるため、現場をよく知りそのうえで、きめ細かく保健事業をすることが必要だと強く感じました。(ファイザー健康保険組合)

○自治体との協働により加入者だけでなく地域の人への健康意識を高めるアプローチを行うことができた。他健保組合との意見交換により保健事業への取り組みを学ぶことができた。今後も他健保組合など保健事業のアプローチを一緒に推進していければと思いました。(ファイザー健康保険組合)

○単一健保ではなし得なかった事業は大変有意義であったし、地域関係者へのインパクトも大きかったと感じる。(グラクソ・スミスクライン健康保険組合)

○地域の健康リテラシーを高めることを目指した今回の企画は、健康保険組合と地域との協働がこれまであまりなかった状況において、地域のイベントを利用するという、有用なコラボレーションの実例だと認識しています。(BIJ健康保険組合)